

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	九州大学		
取 組 名 称	専門知識に立脚した実践英語討議能力の育成		
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成 20 年度 ~ 平成 22 年度 (3年間)		
取 組 学 部 等	歯学部	取組担当者	中西 博
W e b サイト	http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/projects/shitsutaka/		
取組の概要	歯学部入学から卒業までの6年間で3段階（全学英語教育・基礎歯学英語教育・臨床歯学英語教育）に分けたインストラクショナルデザインを策定し、全学教育科目と専攻教育科目（歯学教育）を調和させた6年一貫実践的歯科英語教育プログラムを構築した。このプログラムを3年間にわたり展開・発展させたことにより、現在の歯学英語教育に圧倒的に不足していた教育資産の構築と教育実践を行い、その効果を TOEFL-ITP で評価した。		

1. 取組の実施状況等

① 取組の実施状況

歯学部長をリーダーとして、ICT 学習プログラムを統括する WBT(Web Based Training)委員会、学部教育全般を企画・立案する学務委員会が本取組を企画実行する体制とした。また、ICT 学習プログラムの開発を専従して行う教育・医療情報担当室（1名）を設置することにより本取組の円滑な進捗を可能にした。取組対象とする学生数は365名（取組最終年度学生数）であった。

教育目標を下記のように定め、これを達成するために授業計画を策定し、オリジナル教材の開発、年度ごとの見直しを行った。

（教育目標）

- ① 語学学習習慣の定着を図る ② 指導的歯科医療従事者の基盤となる臨床英語能力を養う ③ 指導的歯科研究者の基盤となる学術英語能力を養う

この3年間の取組では、九州大学全学共通教育でも利用されている e-learning 教材の NetAcademy2 と5冊のオリジナル歯科英語教材を作成し利用した。入学後の言語文化基礎科目を「学部専門英語教育への出発点」として捉え、低年次から全学教育でも利用されている NetAcademy2 を利用し、基盤となる全学教育での英語学習を支援することで専門英語教育へのスムーズな移行を目指した。オリジナル教材すべてに音声・ビデオ教材が作成されており、テキストと連動するように九州大学 Web 学習システムに登録された。学生は授業開始前・授業終了後に教材にアクセスすることで、より効果的な学習が可能になるようにデザインされた。また、学習に有益なリンクや毎週新しいコンテンツを追加していくことで、学生の学習意欲を刺激した。このカリキュラム作成では、言語教育の専門家である九州大学言語文化研究院の全面的な支援を受けることにより、学生に対して学習効果の高いプログラムを展開することが可能になった。この取組に関する情報は九州大学ホームページで公開された。

②取組の成果

平成20年度より開始された3年間の教育 GP により、全学教育から専門教育までの歯学専門英語教育(臨床英語・学術英語)の基盤を構築し、その教育効果を TOEFL-ITP により評価した。講義はすべて対面授業で行い、課外学習として e-learning を活用させた。

1) 歯学専門英語教育基盤の構築

平成20年度からの3年間の取組で、オリジナルテキストを5冊作成した。各テキストは臨床歯学英语と学術歯学英语教育を目標に作成された。以下にオリジナルテキストの概要を示す。

1. 歯科英単語：66ページ:歯科材料や基礎的な疾患名を中心に2712語をピックアップし、2712本の音声ファイルを学生に提供した。
2. 歯科英会話1：19章59ページ:基本的な診療に用いる英会話分865本と1133本の音声ファイル、268本のビデオ教材を学生に提供した。
3. 歯科英会話2：58章132ページ:歯科英会話1を基盤とした58の診療場面を想定した英会話を作成し、58本の音声教材を学生に提供した。
4. 歯科プレゼン英語：10章33ページ:内容:英語プレゼンテーションの基本を解説、20本のナレーションファイルを学生に提供した。
5. 歯科研究英語：5章からなる論文検索法・論文読解の基礎講義テキストを学生に提供した。

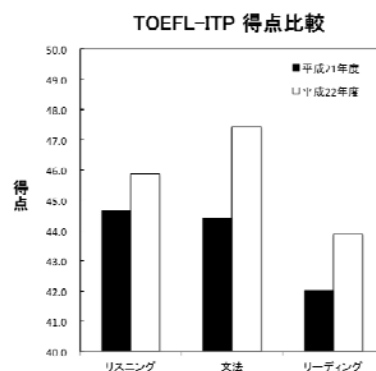
2) 本事業の教育効果

また、本事業の効果を評価するために、国公立大学で採用されている団体向けテストプログラム TOEFL-ITP を実施した。主な評価対象として入学当初からこの取組による教育3年間にわたりを受けた3年生のデータを示す。

平成22年度3年生前期 Web コース学習時間

Web コース総訪問者数	5026人
1日平均学習時間	23分25秒
1日平均訪問者数	52人

対象とした学年(52名)の平成22年度前期の Web コース学習時間からは、1学期間にのべ5026人の学生が Web 学習教材にアクセスし、1日あたりの訪問者数は対象学年と同数の52人であった。学生全員が1人あたり毎日23分25秒もの自主学習を行っていたのである。これは、対面講義と Web による e-Learning に有機的な関連性を持たせ、予習・講義・復習の学習サイクルを構築したことにより、学生の英語学習に対するモチベーションが向上し、英語学習習慣が定着していることを示している。さらに、TOEFL-ITP 得点比較グラフからも明らかなように、リスニング・文法・リーディングの3要素全てで著しい得点上昇を示し、本事業の高い教育効果が証明された。



③評価及び改善・充実への取組

本取組では、学内自己評価委員会を設置し、年度ごとに取組の進捗状況とその効果について評価・改善を行う体制が構築された。

英語能力の客観的評価には、各国公私立大学で広く利用されている TOEFL-ITP を用いた。その結果、専門課程進学後の2年修了時には前年比で約10%程度の英語能力の低下が認められた。

その原因を調査したところ①1年次には英語教育が週4時間行われているのに対して、専門課程に本格的に移行する2年次では半減し英語学習の絶対的な時間の不足していること②専門課程では膨大な知識を学習・理解する必要がある、学生の学習時間における英語学習時間が相対的に減少していることが明らかになった。

そのため、年度ごとの評価委員会では①英語教育時間数の増加②英語学習の動機づけ③Webベースの学習教材を提供することにより「いつでも・どこでも・何度でも」学習可能な環境構築を推進することが決定され、次年度からの取組に盛り込まれた。

その結果、2年次には一時的に TOEFL-ITP の成績が低下するものの、3年次にはその低下をはるかに上回る成績上昇が認められた。(本取組期間中は、歯学専門英語教育だけが行われ、TOEFL 試験対策などは行っていない。)

また、専門英語教育の開始後には学生による英語学習サークルや、海外渡航経験者数の増加、海外短期留学英語コース等への参加者などが増加しており、学生に対して英語学習の動機づけにも大きく影響したと考えられる。

取組最終年度には、外部評価委員(東京医科歯科大学・東北大学歯学部・北海道大学歯学部)を招き、3年間の取組と補助事業終了後の取組の発展性について歯学専門英語教育プログラムとして高い評価を受けた。

④財政支援期間終了後の取組

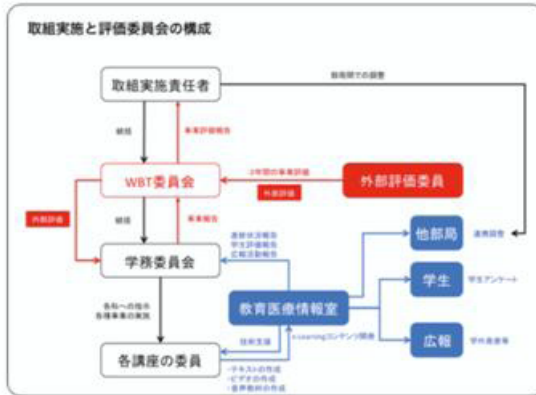
九州大学歯学部では、財政支援期間終了後も継続して歯学専門英語教育を行っている。具体的には歯学総論1、歯学総論2、歯学総論3、歯学総論4、ソーシャルエクスポージャー特論等で歯学専門英語教育を継続しており、全国歯学部の中でも最大の専門英語教育時間数である。

また、最終年度で学内・外部委員会で指摘された問題点にも対応し、改善を続けている。今年度からは、学生の学習動機づけのために希望の多かった「ヒアリングディクテーション講義の増加」「難易度の高い論文読解講義」を新たに実施している。

3年間の取組では、前述した膨大なテキスト・音声教材が作成され、年度ごとに改訂・改善され魅力的な教材へと進化した。今後、知的財産権の問題に留意しつつ、学内予算の確保や外部資金の獲得に努めながら、教材等の継続的な作成に取り組むこととしたい。

また、今後の発展には大学院教育までを含めた英語教育の実施が必要であり、大学院進学までに実施する1～2年の研修を含めた期間の英語教育への展開を今後検討したい。

2. 取組の全体像



九州大学歯学部では、左図のような取組実施体制を構築し、3年間の取組で、Webリソースとテキストの連携を充実させ、多くのマルチメディア教材を開発しました。

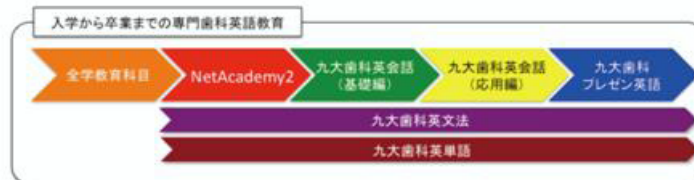
オリジナル教材



Web学習教材



講義風景



学生は入学直後からオリジナルテキストによる専門英語学習を開始します。

